

第3回 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会 次第

日 時 令和3年5月 14 日(金)18:30～20:00

会 場 飯田市役所 C 棟 311～313 会議室

1. 開会

2. 座長あいさつ

3. 協議事項

(1)研究会会議録の内容確認・公開について

(2)これまでの研究会の振り返り、令和3年度の進め方

4. 次回開催案内

令和3年8月(日程が決まり次第ご通知します。)

※令和3年度の委員の皆様には出席をお願いします。

5. 閉会

本日の研究会の内容

1. これまでの研究会の振り返り
2. 令和3年度の進め方
 - I. 前提として
 - II. 意見交換を始める前の関係者への説明、調整
 - III. 学校運営協議会での意見交換
 - IV. 意見交換後のまとめについて

1. これまでの研究会の振り返り

○第1回研究会(令和2年12月15日開催)

- ①「児童生徒が減少していること」「校舎の老朽化が進んでいること」「校舎の更新に多大なコストがかかること」
- ②数合わせではなく、子どもたちを真ん中に置いて、将来の子どもたちにとって望ましい教育環境とはどんな学校か、みんな(教職員、保護者、地域、教育委員会)で考えていく。→地域とともに歩んできた飯田市の学校にふさわしい方法。
- ③進め方:令和2年度に「5つの提案」を含めた「教育委員会からの提案」を作成。→「教育委員会からの提案」をもとに令和3年度に学校運営協議会での意見交換。→「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた指針」作成→令和4年度以降それぞれの学区で具体的な検討。

⇒①②③について共有

○第2回研究会(令和3年3月3日開催)勉強会として開催

- ▼少子化に関わる学校関係の国の通達や全国的な状況など、県外例として栃木県小山市の小中連携の経過…坂野委員
- ▼県内例(木曾郡の小規模校や信濃町の小中一貫校など)を引き合いにこれからの学校教育に求められる教育をどうイメージするか…伏木委員

※第2回研究会会議録参照

2. 令和3年度の進め方

I. 前提として

- ①今後の学校のあり方については、児童生徒数や学校施設の状況などにより、それぞれの地域の捉え方や認識に違いがある。それぞれの状況を踏まえながら、丁寧に意見交換を進めていきたい。
- ②飯田市全体の現状として「児童生徒が減少していること」「校舎の老朽化が進んでいること」を説明したうえで、それぞれの学校の様子、地域の取り組み、学校の課題(学習環境、通学区、施設等)、どんな学校にしていきたいかなどについて、結論ありきではなく話し合う場とする。

③第1回研究会では、「5つの提案」を含めた「教育委員会からの提案」をもとに学校運営協議会で意見交換するとしたが、先に「5つの提案」のような今後の学校のかたちを示すと、その中から選択するような方向になり、丁寧な意見交換にならなくなる恐れがある。各学校の課題等の意見交換を踏まえたうえで、その後に課題解決の手法の例として示していく。

II. 意見交換を始める前の関係者への説明、調整

①5月の研究会、公民館館長会、公民館主事会、まちづくり委員会連絡会議、校長会での説明を経た後から各学校での意見交換を始める。

②意見交換の前には、教頭及び公民館主事等と打ち合わせを行う。

III. 学校運営協議会での意見交換

子どもたちを真ん中に置いて将来の子どもたちにとって望ましい教育環境、地域に根ざした飯田らしい教育環境とはどんな学校か、みんなで考えていく。

①1回目の学校運営協議会での意見交換(6～7月)

- ・飯田市や各中学校区を取り巻く現状の説明、共通理解
- ・今後の意見交換の進め方について協議

②2回目の学校運営協議会での意見交換(9～12月)

- ・各学校での児童生徒数減少に伴う学習環境、施設の状況(安全性)、空き教室の状況と活用の可能性、地域の文化・伝統の継承などをふまえて、地域が描く将来の学校像を話し合う。
- ・将来の学校像の実現に対する悩みや課題の解決に向けた方向性を協議する。

※年間の学校運営協議会の予定に当てはまらない場合は、臨時の学校運営協議会の開催をお願いしていく。

IV 意見交換後のまとめについて

事務局(市教委)は、各学校運営協議会で出された意見や将来の学校像を受け止めながら、課題や方向性について集約し、令和3年度末を目途に「今後の検討のための資料」としてまとめる。そこには課題解決の手法の例として「5つの提案」を含める。

また、各学校での意見交換の様子を他の学校へ情報提供する。

令和4年度からは「今後の検討のための資料」をもとに、各学校、中学校区等で今後の学校のあり方について検討を進める。

今後の日程

月 日	会議名等	内容
5月 11 日(火)	教育委員会定例会	状況報告 ※毎月開催される教育委員会定例会へ、その時点での状況報告を行う。
5月 14 日(金)	第3回教育環境の充実に向けた 取組研究会	令和3年度の進め方について協議
5月 17 日(月)	公民館館長会	学校運営協議会での意見交換について説明
5月 18 日(火)	公民館主事会	同上
5月 24 日(月)	まちづくり委員会連絡会議	同上
5月 26 日(水)	下伊那校長会	飯田市内小中学校長へ学校運営協議会での意見交換について説明
6～7月	各学校での学校運営協議会①	・学校を取り巻く現状の説明、共通理解 ・今後の意見交換の進め方について協議
8月	第4回教育環境の充実に向けた 取組研究会	・学校運営協議会の状況を報告 ・今後の進め方について協議
9月	「概要版」の各家庭への配布	
9～12月	各学校での学校運営協議会②	・将来の学校像について意見交換 ・課題解決に向けた方向性を協議
1～2月	「今後の検討のための資料」として まとめ	・意見交換で出た課題や方向性をまとめる。 ・課題解決の手法の例として「5つの提案」示す。
1～2月	各学校での意見交換の様子を他の 学校へ情報提供	
3月	第5回教育環境の充実に向けた 取組研究会	「今後の検討のための資料」について協議
令和4年度 4月～	「今後の検討のための資料」をもとに、各学校、中学区等で今後の学校のあり方について検討を進める。	

①一定生活圏域の中での義務教育学校

- ・小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校
- ・柔軟な教育課程編成が可能 5-4 制、4-3-2 制のなどの選択
- ・施設一体型、施設隣接型
- 期待できる効果
- ・教育主体、教育活動、学校マネジメントの一貫性の確保
- ・組織的、継続的な教育活動の徹底による教育効果の向上
- ・子どもたちの社会性の育成機能の向上(異学年交流、部活動など)
- ・いわゆる「中1ギャップ」の緩和をはじめとする生徒指導上の諸問題の減少

○県内例：・根羽村立義務教育学校根羽学園

・大町市立美麻小学校 ・信濃町立信濃小中学校

②地域特性を踏まえた特色ある学び

- ・小規模校ならではの魅力を生かした学校づくり
- ・特色に共感する他の地域の児童生徒の受け入れ
- 期待できる効果
- ・学校の存続と教育環境の維持
- ・さめ細やかな指導
- ・ICTを活用した複数学校間(市外、県外の学校とも)の合同事業
- ・学校と地域の強い絆
- 市内例：上村小学校 平成 29 年 12 月小規模特認校に指定(上村コミュニティからからの要請を受ける形)

③地域づくりを踏まえた学校施設の複合利用

- ・学校施設と地域の児童クラブ、図書館、公民館、公民館、保育所などを複合的に設置する
- ・学びの場である学校を中心に地域コミュニティの拠点を形成する
- ・新設する校舎に包含する方式、空き教室を有効活用する方式
- 期待できる効果
- ・児童生徒や地域住民に多様な学習環境を創出する
- ・児童生徒を含めた地域住民同士の交流の機会を創出する
- ・規模は縮小するが、地域に必要な施設を地域に残すことができる
- ・公共施設の集約により利便性が向上する

○県外例：・千代田区立昌平小学校 幼稚園、保育所、児童館、図書館

・京都市立京都御池中学校 保育所、老人デイサービスセンター、在宅介護支援センター、行政機関、店舗(民間)

・南砺市立利賀小中学校 放課後児童クラブ、公民館

④実態を踏まえた通学区の見直し [p13]

- ・隣接した学校で児童生徒数に違いがある場合、同規模程度になるよう通学区を見直す
- ・地域の思い、空き教室の状況などの勘案が必要
- 期待できる効果
- ・小規模校の存続が可能となる

⑤地域の実情を踏まえた隣接校間の統合 [p13]

- ・隣接する小学校間、もしくは中学校間の統合
- 期待できる効果
- ・単級学級や小規模校が解消できる

R2

R3

R4

- 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会
- ☑ 少子・人口減少社会における教育環境の充実に向けた学校づくりの方向性について共通理解
 - ◇ 飯田市の学校環境を取り巻く現状
 - ◇ 少子化にともなう教育環境の課題
 - ◇ 学校別整備状況(校舎の建設年から見える課題) 等
 - ☑ 様々な可能性を示した「将来にわたる子どもたちが主体的に学びあえる場」(※以下「主体的に学びあえる場」)の検討
 - ◇ 先行的な学校のかたちを提案
- 例：一定生活圏域の中での義務教育学校 等
- 「飯田市教育委員会からの提案」を作成

- 学校運営協議会で作された意見や方向性について整理・検討し、指針案を作成する。
- ◇ 「飯田市教育委員会からの提案」をもとに、各学校運営協議会で協議した「主体的に学びあえる場」について、協議内容を反映したかたちへと具現化する。
 - 地域(地区)・学校の歴史や経過、学校に対する住民の思い、今後あるべき学校像の違いを受け止める。
 - 各校、各地域の「主体的に学びあえる場」の方向性を見出す。
 - ◇ 学校や地域ごとに描かれた学びあえる学校のかたちを作成
- 飯田市教育委員会「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた指針」の策定

資料「飯田市教育委員会からの提案」・「概要版」

学校職員

- ☑ 飯田市教育委員会からの提案」の内容を理解
- 校長が概要版で教職員に説明(2月)

保護者・まちづくり委員会・公民館

- ☑ 「飯田市教育委員会からの提案」の内容を共有
- 市PTA連合会会長、市保健役員会、まちづくり委員会連絡会議、公民館館長などとの機会に説明

パブリックコメント

「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた指針」の決定

「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた指針」をもとにそれぞれの学区で具体的な検討

各学校・9中学校区からの意見・方向性

学校運営協議会での意見交換

- ☑ 「飯田市教育委員会からの提案」をもとに意見交換
- ◇ 地域や学校の状況(課題、目指す子ども像、大切にすべき教育活動などを視点に、10年後、20年後の将来像を思い描く。
- ◇ 「主体的に学びあえる場」を実現するための教育環境の充実について意見交換
- ◇ 学校や地域ごとの特色ある取組へ、教育委員会が支援することの共有

令和2年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組」研究会 委員名簿

氏名	所属等	備考
松島 ゆかり	飯田市校長会	追手町小学校長
斉藤 辰幸	飯田市校長会	鼎中学校長
金田 功次	飯田市PTA連合会長	千栄小学校PTA会長
清水 麻由美	飯田市PTA連合会副会長	高陵中学校PTA副会長
及川 崇	飯田市保育園保護者会連合会長	龍江保育園保護者会長
松本 智	飯田市私立認定こども園保護者等連合会長	ルーテル幼稚園保護者会長
小澤 伸好	まちづくり委員会代表	丸山まちづくり委員会 Aブロック
岩崎 守倫	まちづくり委員会代表	上郷地域まちづくり委員会 Bブロック
木下 博史	まちづくり委員会代表	龍江地域づくり委員会 Cブロック
塩澤 章男	まちづくり委員会代表	山本地域づくり委員会 Dブロック
塩澤 哲夫	飯田市公民館長	
後藤 正幸	有識者	前信濃教育会会長
伏木 久始	有識者	長野県教育長職務代理者 信州大学学術研究院教育学系教授
坂野 慎二	有識者	玉川大学教育学部教授
代田 昭久	飯田市教育委員会 教育長	
北澤 正光	飯田市教育委員会 教育長職務代理者	

16 名

令和3年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組」研究会 委員名簿

氏名	所属等	備考
木下 潤児	飯田市校長会	浜井場小学校長
斉藤 辰幸	飯田市校長会	鼎中学校長
島崎 誠	飯田市PTA連合会長	高陵中学校PTA会長
酒井 正也	飯田市PTA連合会監事	和田小学校PTA会長
	飯田市保育園保護者会連合会長	
	飯田市私立認定こども園保護者等連合会長	入舟幼稚園保護者会長
大場 孝	東野まちづくり会議会長	Aブロック代表
安田 完爾	鼎地区まちづくり委員会会長	Bブロック代表
熊谷 兼富	上村まちづくり委員会会長	Cブロック代表
宮下 博	伊賀良まちづくり委員会会長	Dブロック代表
渡邊 義昭	飯田市公民館長	上郷公民館長
後藤 正幸	有識者	前信濃教育会会長
伏木 久始	有識者	長野県教育長職務代理者 信州大学学術研究院教育学系教授
坂野 慎二	有識者	玉川大学教育学部教授
代田 昭久	飯田市教育委員会 教育長	
北澤 正光	飯田市教育委員会 教育長職務代理者	

16 名

令和3年度「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会」
事務局名簿

氏名	職責	備考
代田 昭久	飯田市教育長	研究会委員を兼ねる
北澤 正光	飯田市教育長職務代理者	研究会委員を兼ねる
松下 徹	参与、教育次長事務取扱	
桑原 隆	学校教育課課長	
湯本 正芳	学校教育課学校教育専門幹	
塩澤 裕美子	学校教育課教育指導専門主査	
麦島 隆	学校教育課教育指導専門主査	
小木曾 雄亮	学校教育課教育指導専門主査	
山浦 貞一	学校教育課教育支援指導主事	
櫻井 英人	学校教育課課長補佐兼総務係長	
竹村 公彦	学校教育課課長補佐兼教育企画担当主幹	
上沼 昭彦	学校教育課課長補佐兼学務係長	
仲田 好寿	学校教育課保健給食係長	
上柳 智広	児童クラブ担当専門主査	
熊谷 一彦	学校教育課学校施設係長	
小澤 亮公	学校教育課学校施設係	

16名